

SSKA

全国パーキンソン病友の会会報

宮城県支部だより

No. 103

夏休み増刊号

2018年8月発行



宮城県支部 〒980-0012  
仙台市青葉区錦町 2-5-28  
-304 青木泰則方  
Tel: 090-8854-9881

## 出発進行!.....

- ❖療養生活の質（QOL）を高める交流の場となります！
- ❖原点に立ち返り真っ当な運営をします！
- ❖会計の健全化を推進します！

**A明るく T楽しく M前向きに！**



7月30日 iPS 細胞治験開始のニュースが、新聞・テレビを駆け巡り、7月31日には全国パーキンソン病友の会の長谷川会長も声明を発表しました。また事態の緊急性に鑑み、急遽【全国会報 153号追補】が発行されました。発表の数日前から当編集部へも続々と関連情報が押し寄せ、この増刊号の編集方針も二転三転しました。お役立ち情報を適時にお手許にお届けできたらと願っています。

## パーキンソン病 iPS 細胞移植について

治験の申込方法、対象の基準等については【全国会報 153号追補】をお読みください。6項目の主要基準のうち、50才以上70才未満という年齢制限は今回の治験のみの摘要で、将来実用化された場合の基準ではありません。細胞移植手術の際の入院期間は約1ヶ月の予定で、細胞移植後2年間の経過観察を行い、その後も引き続き経過観察が必要だということです。

### どのような手術をするのでしょうか？

DBS手術と同じ定位脳手術で、3次元で座標を決めることが可能な特殊な頭部の固定器（フレーム）を使います。iPS細胞から作成したドパミン神経前駆細胞約500万個を、患者の脳の線条体（左右両側）に移植します。DBSでは患者の頭部に1円硬貨より小さい穴を開けますが、移植手術ではさらに小さい直径12ミリの穴を開け、特殊な注射針を使ってiPS細胞を脳に移植しますので、手術自体はDBSより短時間で容易です。今回の治験ではDBS手術を受けた方は対象外となりますが、将来的には併用も可能です。2022年までに安全性や効果を確認し、実用化された場合、保険適用になることを目指すそうです。京都大学医学部附属病院&京都大学iPS細胞研究所ウェブサイトから

